家世日記抄

第壱冊

リ 5
2687
10

門 リ 5
2687
10 上

宮城県図書館

家忠日記追加巻之廿 自慶長十三年至同十五年

慶長十五年庚戌

正月大

一日江戸ノ城正旦ノ賀儀例ノ如シ　台徳院殿ヨリ
大久保加賀守忠常歳首ノ御使トシテ駿府ニ来賀ス
二日秀頼伊藤掃部助ヲ使トシテ駿府ニ赴カシメ新正
ノ賀ス
九日　大神君田中ニ狩シ玉フ

平井文庫

十三日　大神君相良ニ着御　十四日　大神君駿府ニ還御
十九日　大神君田中ニ御放鷹アリ
廿三日　台徳院殿鈎命ニ依テ内藤甚十郎（忠重）ヲ時廿五歳後ニ伊賀守ト号ス
廿四日　大猷院殿ヲ時七歳ノ傅トナル
　　大神君田中ヲ出玉フテ中泉ニ狩シ玉フ

二月小

二日　大神君中泉ヨリ田中ニ渡御
四日　大神君駿府ニ還御

閏二月大

二日堀越後守忠俊カ家臣堀丹後守直寄ハ監物兄弟ノ争ヲ訴論ニ及ヒ江戸ニ来テ是ヲ訟ルコレヨリ先キ　大神君本多美濃守忠政カ女ヲ御養女トシテ堀越後守忠俊ニ嫁セシメ玉フ依之忠政婿ノ忠俊カ家臣訟論ニ及ハ、忠俊カ身上危カラン事ヲ慮テ本多上野介正純安藤帯刀直次成瀬隼人正正成等ト相議シテ文和ヲ結フトヲ云ヒ直寄曾テ許容セス直寄遂ニ駿府ニ来テ頻リニ是ヲ訟ル
大神君此訟ヲ聞セ玉フ老臣奉行人等城ニ登リ

坐ス堀丹後守直寄同監物同主計頭直之後ニ左衛門尉ト号ス
ヲヲシ又式部少輔ニ改ム 同淡路守同加賀守後市正ト号ス等各御前ニ
召テ伺候ス時ニ直寄一封并ニ案状ヲ持出テ跪
テ監物ニ相對ス 大神君障子ノ裏ニ御坐シ細ク
聞テ是ヲ見玉フ直寄監物兄弟互ニ問答スル旨
三回直寄謂テ曰監物国ニ在テ私曲アリ其故ハ
浄土法花ノ僧シテ私ニ宗論ヲ聞其勝劣ヲ知ラ
スシテ恣ニ浄土宗ノ僧十余人ヲ殺害スルノ由ヲ達ス
大神君障子ヲ大ニ開カル浅井ノ局却則[illegible]

大神君監物ヲ怒リ玉テ曰其宗論ヲ聞テ勝負決
スル者ハ誰ナル由ヲ命セラル監物カ云ク智者ヲシテ
是非ヲ聞カシメ其非ナルヲ以テ罪スルノ旨ヲ言上
ス又命有テ曰所謂ル智者ハ何人ソ汝カ愚意ヲ
以テ宗論ノ是非ヲ決ス汝ヲシテ智者トセンヤ我意
ヲ以テ恣ニ沙門ヲ殺スヿ是大ナル罪也此一事ヲ以
テ其外ノ私曲ヲ知ル餘事聞ニ及ハス又越後守ハ
家臣兄弟ノ諍論ヲ決スルヿ不能妄リニ我ニ訟シト
駿府ニ来ルヿ短慮ナリ如此ニシテ爭カ国ヲ治ンヤ然忠

俊カ咎ナル由ヲ命有テ忠俊ハ岩城ニ配流セラレ監
物ハ家上ニ謫セラル直寄ハ罪ナキニ依テ恙ナシ然リト
云ヒ旧領五万石ヲ減セラレ信州ニ於テ采地三万石ヲ
賜ル此春上井大炊頭利勝ニ下總国小見川采地一万石
ヲ轉テ同国佐倉ノ城食邑三万二千四百石余ヲ賜ル
三日上總久忠輝ニ越後ノ国ヲ賜ル元信州河中島ニ居ル
十日 台徳院殿三州田原ニ獵シ玉ハン為駿州ヲ出テ田
中ニ着御
十四日 台徳院殿大久保ニ狩シ玉フ十六日同狩シ玉フ

十七日 台徳院殿藏王山ニ獵シ玉フ庶貳百四十七猪二
十二ヲ得玉フ小臣岡部ノ十郎ト中川ノ兵衛尉諍ハ
兵衛ヲ被ル後両人共ニ自殺ス
廿日 台徳院殿日留和山ニ獵シ玉フ黄昏還御庶
百五十猪三十四ヲ得玉フ
廿二日 台徳院殿若見山ニ獵シ玉ヒ其夜泉福寺ニ
御旅館庶百六十三猪二十二ヲ得玉フ
廿三日 台徳院殿多坪ノ馬場ニ獵シ玉ヒ其夜泉
福寺ニ御旅館庶五十二猪二ツヲ得玉フ

廿四日 台徳院殿小松原ノ観音ニ御旅館
廿八日 台徳院殿駿府ニ還御
此月西北諸州ノ人夫ニ命テ城ヲ尾州名古屋ニ築カシメラル

三月小

五日 台徳院殿駿府ヲ出テ江戸ニ赴キ給フ
十日 勅使洛ヲ出テ駿府ニ赴ク明年ノ譲位ヲ告シカ為ナリ
廿三日 井上庸名従五位下ニ叙シ淡路守ニ任ス

四月小

高野山寺社領ニ百姓ヲ置カル事ヲ禁ス

高野山寺社領ニ武家奉行ヲ置ル事ヲ禁ス
上之ヲ行ハル事ヲ申注文ニ可有言上ノ旨
安房守ニ言ス
同井雅楽頭
中務法印寺

四月二日

高野山寺社領尾州
寺社山家尾州

三月廿八日 西上様ヲ首 南蛮ノ上方ニ出ル
日光山ニ御行幸 観照山房ニ清光庵

新[illegible]分　上意ハ同ニ[illegible]寺中江之
名[illegible]有言上ハ[illegible]

四月二日

安房殿[illegible]
同井雅楽頭
[illegible]

日光山[illegible]
[illegible]
筑紫山[illegible]
[illegible]寺

定

一侍之事ハ不及沙汰中間小者ニ[illegible]迄一事[illegible]
一切動[illegible]
附[illegible]
一新[illegible]者ハ[illegible]但其[illegible]切[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

附国東中法師ニ人ニ分六尺一面泡盃一ツ宛
若有相違者ハ為過科金子一枚可出之
右ニ賜ハリ旨ヲ可存者也
慶長十五年 四月二日

廿日法式五ヶ条ヲ高野山ニ賜ル

高野山寺中法度

一所住中ニ法師ハ可為如前事
一両門徒中法式ヲ以門主異見仕門主ニ分面直
ニ於非分ニ可申上事

一於古跡ニ新家相續ヲ以両門主お法師ハ学者敢
師弟ハ其為儀血脈ヲ濃ニ法師ハ法道ヲ
一頂学ニ仕者ハ古法不一の企計仕ル
一学徒ハ古ニ初ル不論貴賤偏頭院家お者
ハ有配当ル

附両門徒中世帯意有人魂ヲ渇一ニ被調ル
右條々可ニ守也
慶長十五年 四月廿日 金剛峯寺衆徒中

此日松平宮内少輔忠雄淡路国ヲ賜ル謝礼トシテ駿府及ヒ江戸ニ参ノ候シテ　西尾君ニ謁ス　大神君ヨリ御脇指ヲ賜リ　台徳院殿ヨリ御腰物御馬ヲ賜ル

五月小

十一日水野六左衛門尉勝成従五位下ニ叙シ日向守ニ任ス

十六日嶋津家久中山王ヲ（琉球一名中山王ト云）推ノ下ニ薩州ヲ首途シテ駿府ニ赴ク

七月小

一日　大神君駿州瀬名川ニ漁シ玉フテ水底ニ泳キ玉フ

十三日高木主水正清秀卒ス八十五歳

十九日伯耆国ヲ加藤左衛門尉市橋下總守関長門三人ニ賜ル

廿七日勢州亀山五万石松平下總守忠明ニ賜ル忠明元三州作手ニ居ル八　大神君ノ御外孫也

此月武州深谷采地八千石松平大膳大夫忠重ニ賜フ

八月大

二日太田新六郎卒ス

三日　台徳院殿ヨリ御使トシテ土井大炊頭利勝駿

府ニ至リ城ニ登テ　大神君ニ謁ス時ニ　大神君ヨリ御
茶入紹鷗圓坐肩衝ヲ利勝ニ玉テ此茶入ヲ以テ茶會ヲ促シ
將軍家ヲ饗シ奉ルヘキノ由ヲ命セラル
六日嶋津家久中山王ヲ携テ駿府ニ至ル
八日家久中山王ヲ携テ駿府ノ城ニ登ル　大神君出
御有テ中山王ヲ見玉フ王　大神君ヲ拜シ奉ル緞子
百卷羅紗百十二尋蕉布百卷太平布二百卷ヲ
献ス其礼畢テ家久御前ニ出テ　大神君ニ謁ス太
刀一腰白銀二万兩ヲ献ス

十八日家久及ヒ中山王ヲ駿府ノ城ニ召テ饗膳ヲ賜
テ猿楽ヲ見セシメ玉フ時ニ常陸久殿御鶴殿是カ
為ニ舞曲アリ其間土器度ク廻リ山肴海物其數
ヲ不知　大神君ヨリ御腰物頒宗御脇差頒宗ヲ家久
ニ賜ル夕日ニ及テ城ヲ退出ス
十九日　大神君ヨリ家久及ヒ中山王ニ暇ヲ賜ル
廿日家久中山王ヲ相伴テ駿府ヲ發テ江戸ニ赴ク
廿日家久中山王江戸ニ到ル
廿二日　台徳院殿ヨリ家久カ櫻田ノ宅ニ其遠来ヲ

労テ 上使ヲ賜ル
廿七日 台徳院殿ヨリ重テ上使ヲ家久カ宅ニ被下精
米一千俵ヲ賜ル
廿八日中山王江城ニ登テ 台徳院殿ニ謁ス緞子百巻
蕉布百巻太平布二百巻ヲ献ス家久緞子百巻虎皮
十枚白銀一万両及ヒ長光ノ太刀ヲ献ス又御太刀一腰御
馬一匹紅絲百斤ヲ 若君ニ献ス
九月大
十六日中山王及ヒ家久ヲ江城ニ召テ饗膳ヲ賜テ退
出ス是日家久カ櫻田ノ宅地ニ上使ヲシテ 台徳院殿
ヨリ御馬ヲ下サレ暇ヲ賜ル
廿日家久中山王ヲ推テ江戸ヲ発シ木曾路ヲ経テ洛
ニ入ル
十月小
九日駿府ノ城御庖焼失ス
十四日 大神君駿府ヲ御首途有テ清水ニ着御
此日松平右衛門佐正久ニ采地千石ヲ加賜セラル
十八日本多中務大輔忠勝卒去六十三歳其子美

濃守忠政父忠勝カ遺跡ヲ継テ桑名ノ城米地
十万石ヲ領ス
十九日　大神君三島ニ著御
廿日　大神君小田原ニ著御
廿一日　大神君武州ニ狩シ玉フ　台徳院殿来謁シ玉フ
大神君狩シ玉フ數日ノ後江戸ノ城ニ入玉フ
十一月大
廿七日　大神君江戸ヲ出玉テ駿府ニ赴キ玉フ途中御
放鷹アリ

十二月大
十日　大神君駿府ノ城ニ還リ入玉フ
廿一日松平玄蕃頭家清卒ス四十六歳　嫡子民部大
輔忠清家督ヲ継テ吉田ノ城米地三万石ヲ領ス
此年丹伊掃部頭直孝ニ上州ニ於テ食邑一万石ヲ賜ル
此年細川玄蕃頭興元始テ　台徳院殿ニ謁シ米地一
万石ヲ賜ル浅野長政カ次男右兵衛佐長晟（後但馬守ト号ス兄ノ紀伊守死テ後嗣子ナキニ因テ長晟遂ニ紀伊守カ家督ヲ継ク）ニ備中国ニ於テ食禄二万石ヲ賜ル
此年　台徳院殿ヨリ山内對馬守ニ松平ノ姓并御諱

ノ字ヲ賜テ忠義ト号シ四品ニ叙シ土佐守ニ任ス時ニ
御腰物紋小路ヲ定俊忠義ニ賜ル
大沢右京亮基重侍従ニ任ス松平家信従五位下ニ
叙シ紀伊守ニ任ス奔多美濃守忠政カ女ヲ有馬左衛門
佐直純ニ嫁ス是 大神君ノ鈞命ニ依テ也 大神君ヨリ
御腰物長光ヲ直純ニ賜ル
阿部備中守正成ニ下野国麻沼領ノ内五千石加賜セラル
此年阿部左馬助忠吉カ男千時九歳後ニ豊後守忠秋ト号ス 大猷院殿ニ
奉仕ス上州吉井采地五千石安藤對馬守重信ニ賜ル

此年 台徳院殿佐渡守正宗カ宅ニ渡御アリ
此年秀頼洛陽大佛殿ヲ経始ス

慶長十六年辛亥

正月大

一日 台徳院殿ヨリ酒井家次嵗首ノ御使駿府ニ至
テ新正ヲ賀ス此日秀頼大野主馬助ヲ使トシテ駿府ニ来
賀ス

七日 大神君遠州ニ狩シ玉ハンカ為駿府ヲ出給フテ田

中ニ著御
九日榛原郡ニ御放鷹有テ中泉ニ著御
十七日中泉ヲ出玉フテ田中ニ著御
十九日安部新四郎重吉卒ス八十二歳
大神君御幼年ニシテ駿府ニ寓居アルノ時近仕スルノ者也
依之　大神君彼カ死ヲ愁サセ玉フ

三月大

六日　大神君駿府ノ城御首途有テ洛ニ赴セ玉フ此日田
中ニ著御同日江戸ノ城経始

七日掛川ニ著御　八日濱松ニ著御　九日吉田ニ著御
十日岡崎ニ著御　十一日名護屋ニ著御此ニ一日御滞坐
十三日岐阜ニ著御　十四日赤坂ニ著御　十五日彦根ニ著御
十六日永原ニ著御　十七日　大神君御入洛
廿日義利（後義直ト改ム）左近衛權中將ニ任ス同日參議ニ任
シ中將旧ノ如ニ從三位ニ叙ス（元從四位下左兵衛督）頼將（後頼宣ニ改ム）左
近衛權中將ニ任ス同日參議ニ任シ中將旧ノ如ク從三
位ニ叙ス（元從四位下常陸介）頼房從四位下ニ叙シ左近衛權少
將ニ任ス

廿日 勅使来テ 大神君ニ告テ曰大政大臣
桐ノ紋ヲ玉フヘキノ旨 勅許アルノ処ニ 大
ヲ辞シ玉ヒテ新田ノ元祖大炊介義重ニ鎮
及ヒ亡父廣忠ニ大納言ノ贈官ヲ請ヒ玉フ
ノ事源家新田足利ト相別テ其門葉両
支等アリ然ルニ後醍醐天皇ノ御宇ニ足
菊桐ノ紋ヲ賜ル依之足利ノ氏族等今
用ヒ来レリ彼ノ流ハ古ヨリ是ヲ用ル
及テ始テ新田家ニ此紋ヲ 勅許有テ

ハ其威足利ニ劣レルニ似タリ末代ニ及テハ
ラヌニハ不如我今新田家ノ統領トシテ
ラシハロ惜カルヘキノ旨ヲ 勅答アル処ニ
浅カラス
廿二日新田大炊助義重ニ鎮守府ノ将軍
同日廣忠ニ大納言ヲ贈ラル上卿大納言
義勝奉行職事右中将藤原ノ朝臣宣
大神君大政大臣ヲ辞シ玉テ此贈官ヲ執奏
廿三日昨日義重廣忠贈官ニ依テ其謝礼

大神君今日参内アリ衣冠ヲ勧修寺ノ亭ニ於テ整ヘテ
此日家上出羽守義光少将ニ任シ堀尾山城守忠朝四
品ニ叙ス
廿七日 御譲位
廿八日秀頼大坂ノ城ヲ出テ洛ニ赴リ是 大神君ニ謁
見セシカ為也 大神君ヨリ義利頼将ヲシテ嶋原河
原ニ迎ヘシメ玉フ此日秀頼二条ノ城ニ登テ 大神君ニ
謁ス時ニ秀頼 大神君ニ御太刀(真盛)刀(一文字南泉ト号ス)脇指(左文字)
駿馬一匹黄金三百枚猩々緋三枚緞子二十巻錦十巻
ヲ献ス其礼畢テ饗應最美也秀頼暇ヲ告ル時
大神君ヨリ秀頼ニ御腰物(左文字)御脇指(吉光鍋藤四郎ト号ス)蒼
鷹三聯ヲ賜ル秀頼二条ノ城ヲ退出シテ東山ニ至テ
大佛殿ノ造営ヲ巡見シ夫ヨリ又豊国ノ社ニ詣テ
伏見ヨリ舩ニ乗テ大坂ニ帰ル時ニ加藤清正伏見ニシ
テ一献ヲ進ム(秀頼ノ輿ノ傍ニ清正歩行ス)
此月本多豊後守康重三州岡崎ノ城ニシテ病ニ
臥ス 台徳院殿ヨリ上使トシテ松平助十郎勝信
ヲ以テ康重カ病ヲ問セ玉フ

此月廿三日康重遂ニ卒ス 五十八歳

四月小

二日 大神君ヨリ義利頼将ヲシテ大坂ニ遣シメ秀頼
上洛ヲ報謝シ玉フ 大神君ヨリ秀頼ニ白銀一萬両母
堂ヘ白銀二千両綿三百把侍女等ニ白銀千両紅花
三百斤ヲ賜ル

三日 義利頼将大坂ヲ出テ伏見ニ到ル

五日 義利頼将帰洛二条ノ城ニ登ル

六日 浅野弾正少弼卒ス 六十五歳

十二日 天皇即位

此日在京ノ諸大名 大神君ノ勅命ヲ奉テ書ヲ以テ盟
誓ス

一 如太閤家以降代々公方ニ任式ヲ行シ祝
儀盃ヲ自ら受ル由有ル出内見参ニ及ぶ事
一 或宵内ニ任式或遂 上意ニ参会ニ及ぶ事
一 名抱ヘ置ク諸侍以下若為報通報宮人ヲ雇
ヒ届ケ手紙ヲ取相抱ヘ
右條々若違背ス輩ハ

[illegible]
[illegible]年六月　四月十二日　左京亮大名主刺

十八日　大神君洛ヲ出玉テ永原ニ着御

十九日彦根ニ着御　廿日柏原ニ着御

廿一日岐阜ニ着御夜ニ入鵜飼ヲ見玉フ

廿二日名護屋ニ着御　廿三日御船ニテ野間ニ御着岸

廿四日風烈ノ故ニ御船ヲ篠島ニ繋玉フ

廿五日呂ニ於テ御船ヨリ下リ玉テ吉田ニ着御

廿六日中泉ニ着御　廿七日田中ニ着御

廿八日　大神君駿府ノ城ニ還御

六月小

廿四日加藤肥後守清正卒ス　五十歳

七月大

定

一堤江戸川迄上下共ニ百姓賃ニ而ハ一銭四十五文宛

京幾銭拾六文宛板橋ヨリ三拾文宛

附人足賃ハ馬ニ乗ル時ハ馬ヲ牽ク者ハ

一馬ニ付ル事一切不可有

止馬可出頭、若猶非分之輩在之者

一 騎之乗手遣て出仕すへき也、但老若病
者之輩遣て先之法令定之、如此出仕之時者日差
當座之外於其所者、當座之馬方に護役徒出
者不可有之

一 路次之往還之族於所々乗馬之者
し雑人等者相具し不可所定居住まかり

一 道路之間之町上洛之時方何方之可相計
路次常に進退之常に遣て馬を可乗事

右條々堅可相守、若於違背之輩者
速可被處罪科之状如件

慶長十六年

七月日

伊賀守

清右衛門

石見守

廿七日板倉内膳正重昌ヲシテ洛ニ赴カシメ　禁裏ノ
四壁ヲ築カシメ玉フ

八月小

三日常陸下野両国ノ中所々ニ悪黨蜂起スルノ由註

進アルニ依テ眼部仲細井金兵衛尉久永源兵衛等ニ
レヲ誅伐スヘキノ旨台命ヲ奉テ常州及ヒ野州ニ発
向ス悪徒等豫メ此告ヲ聞テ志ヲ一ニシ約ヲ結テ競
ヒ集ル眼部細井久永彼在所ニ押寄セ急ニ攻討悪
黨人ヲ悉ク殺テ數十人ヲ生捕ル此首ヲ斬テ小山芋
加羅新田九十三所ニ梟首ス
十三日　大神君浅間ノ山ニ登リ玉テ的ヲ二町ノ外ニ掛
テ自ラ大炮ヲ放シ玉フ三度発テ三度中ル
廿四日加藤虎之助忠廣（後肥後守）父清正カ家督ヲ
賜ル謝礼トシテ駿府ニ来テ　大神君ニ謁ス

九月大

廿七日　大神君藤堂佐渡守高虎カ宅ニ渡御アリ
義利頼将頼房公達各伴ヒ玉フ猿楽御見物アリ
廿八日　台徳院殿ノ姫君（時ニ四歳此姫君一男二女ヲ生玉フ一男越後守光長長女彈正尹好仁親王ノ室次女九条左大臣道房ノ室ナリ）三河守忠直（權中納言秀康卿ノ男）ニ嫁シ玉ヒ江戸ヲ
御首途越前ニ赴キ玉フ土井大炊頭利勝是ヲ送リ奉
ル渡辺山城守モ是ニ副フ姫君駿府ニ著御ノ日
大神君甚是ヲ欣賞有テ二ノ丸ニ宿セシメ玉フ

大神君旦ツ命有テ姫君ニ猿楽ヲ見セシメ玉フ命ニ依テ
土井利勝纏頭ヲ役ス猿楽三番畢テ後小臣等各長
袴ヲ着シ短刀ヲ帯ス青蚨百鍵ヲ舞臺ニ積ム利勝舞臺ニ
登ル小臣廣蓋ヲ捧御衣二領ヲ盛リ進テ利勝カ
前ニ置ク時ニ觀世太夫利勝カ前ニ来テ跪ク利勝
御衣ヲ取テ是ヲ纏頭ス觀世太夫是ヲ肩ニシテ退
ク一門ノ歴々在府ノ諸大名皆城ニ登テ列坐シ是ヲ見
物ス各饗膳ヲ賜ル

十月小

六日 大神君駿府ヲ御首途江戸ニ赴キ玉フ此日清水ニ着御
七日善徳寺ニ着御 八日三島ニ着御 九日小田原ニ
着御 十日中原ニ着御雨ニ依テ此ニ三日御滞坐
此日大久保加賀守忠常卒ス三十二歳 十三日藤沢ニ着御
十四日神奈川着御 台徳院殿此処ニ渡御有テ
大神君ニ謁見 十九日稲毛ニ着御
十八日 大神君江戸ノ城ニ入リ玉フ此日藤堂和泉守高虎
勅命ヲ奉テ肥後国ニ赴ク加藤清正カ男忠廣幼年
タルニ依テ高虎ヲ遣ハシメ国中ノ制法ヲ定ラル

廿四日 大神君江戸本城ニ渡御 台徳院殿是ヲ鄉食ニ玉フ
廿五日 大神君増上寺ニ詣玉フ
廿六日 大神君戸田ニ狩シ玉フ
廿九日 大神君河越ニ狩シ玉フ

十一月大

吾日 大神君忍ニ狩シ玉フ 六日 台徳院殿鴻ノ巣ニ狩シ玉フ
九日 源誉上人及土井大炊頭利勝成瀬隼人正正成ヲシテ
新田ニ赴カシメ大光院ヲ建ル地ヲ見セシメ玉フ
十三日 大神君忍ヨリ河越ニ著御 昔日 台徳院殿鴻ノ
巣ヨリ渡御 大神君ニ謁シ玉フ
十四日 大神君駿府ヘ還リ玉ハン為武州府中ニ著御
昔日 台徳院殿江戸ノ城ニ還リ入玉フ
十六日 大神君神奈川ニ著御 台徳院殿此処ニ渡
御 大神君ニ謁見
十九日 大神君中原ニ著御 廿三日 大神君駿府ニ還リ玉フ

十二月大

十三日正宗カ鍋子江戸ニ在リ君ニ依テ江城ニ登リ
台徳院殿ノ御前ニシテ元服ス御諱ノ字ヲ賜テ

忠宗ト号ス時ニ御腰物（三原ノ正家ノ）ヲ忠宗ニ賜ル有馬玄蕃頭豊氏カ男（于時九歳後ニ中務大輔忠卿ト号ス）江戸ニ参候シテ始テ　台徳院殿ニ謁ス

十五日琉球ノ使薬物及土産ヲ献ス

晦日平岩主計頭親吉卒ス七十歳　此年山口但馬守重政ニ来地五千石加賜セラル旧領合テ一万五千石ヲ領ス一尾法路守通春ニ江州蒲生郡ニシテ食禄千石ヲ賜ル（慶長八年始テ御家人ニ属ス者）　此年阿部備中守正次ヲ大番頭ニ十ナル阿部四郎五郎正之ヲ使番トナル

久留島康親卒ス三十一歳　其子通春（于時六歳後丹波守ト号）康親カ遺跡ヲ賜ル

植村法印卒ス（七十三歳俗名土佐守始三州鳳来寺ノ別当安養院ト号ス元亀三年遠州三方原一戦ノ時大神君ノ幕下ニ属シ軍功アルニ因テ遠州榛原郡ニシテ食邑ヲ賜ル依テ是ヨリ還俗）

此年島津義久卒去ス　台徳院殿ヨリ揖斐左右衛門尉ヲ上使トシテ彼レカ喪ヲ問セ玉フ香奠トシテ白銀一千枚ヲ賜ル　此年忠直少将ニ任ス寺沢次郎忠清従五位下ニ叙シ式部少輔ニ任ス

此年　台徳院殿土井大炊頭利勝カ宅ニ渡御アリ

此年松平武蔵守利隆カ嫡子新太郎（千時三歳江戸ニ
参候シテ始テ　台徳院殿ニ謁ス時ニ御脇指国俊ヲ新
太郎ニ賜ル

家忠日記増補追加巻之廿一廿二廿三廿四以上四巻
慶長十七年ヨリ元和元年摂州大坂両陣等設有
テ詳ニ不記只其大綱ヲ記ス

慶長十七年壬子

正月五日東国北国ノ諸大名各盟書ヲ献ス
十五日藤堂和泉守高虎肥後国ヨリ帰リ国法ノ制
ヲ報ス
大神君遠州三州尾州ニ狩シ玉フ
三月十一日　台徳院殿江戸ヲ出御十七日駿府ニ着御
廿六日　大神君ニ謁ス于時投頭巾ノ小壺ヲ賜ル
四月二日　大神君ト　台徳院殿ト密談数刻人不知之
五月十三日浦生下野守秀行卒ス此五歳（蒲生氏郷カ男）
十一月十二日松平主殿助忠利三州西ノ郡一万石ヲ賜シ

同国吉田城二万石ヲ賜ル

同月十三日越前少将忠直ノ臣本多伊豆守清水冊

後今村掃部諍論ノ事有テ武州忍ノ御旅館ヘ来

テ訟フ　大神君ヨリ命有テ土井大炊頭利勝及方ノ

訴詞ヲ聽キ委ク記テ御前ニ捧ル　大神君此訴書

説ニ三行ヲ上覧有テ後日ニ　台徳院殿ト共ニ聞

セ玉フヘキ由命有テ被指置

同月廿八日本多今村清水忍ヨリ江戸ニ参候ス西ノ丸

ニ於テ　両君其訴ヲ聽シ召サレ決断アリ今村ヲ岩

城ニ清水ヲ仙臺ニ流ニ配セラル本多ハ国ニ帰サレ越前

ノ改ヲ聞シメラル

今月南都蜜倉ニ盗賊アリ寺僧福蔵院中澄院

北林院事顕レテ被誅今年有馬修理進晴信御

勘氣ヲ蒙リ改易セラル翌年ノ春甲州郡内ニテ

遂ニ切腹ス其子左衛門佐直純ニ　大神君ヨリ新

知四万石ヲ賜リ被立置直

今年江城経始諸国人夫ナ組ニシテ修セシム

慶長十八年癸丑

三月廿五日池田宰相輝政於播州卒ス五十歳　両君上使ヲ被下香典銀百枚ヲ賜ル

六月六日　台徳院殿ヨリ輝政カ後嗣ノ事議セラレシカ為ニ安藤對馬守重信ヲシテ駿府ニ遣サシム即命有テ播州ヲ長男武蔵守利隆ニ備前ヲ左衛門督忠継ニ淡路ヲ宮内少輔忠雄ニ賜フ三人共ニ輝政カ子也

七月九日大久保石見守カ子藤十郎外記等ヲ誅ス是又石見守去ル四日卒テ後嗣年好曲ノ事聞ヘ有リ仍テ其子ヲ罪セラル

八月廿五日浅野紀伊守幸長卒ス三十八歳無後嗣其弟但馬守長晟ヲ駿府ニ召テ遺跡ヲ嗣シメ本領ヲ賜ル

九月廿七日大久保次右衛門忠佐卒ス無嗣子其城地沼津不宜仍毀之

十月八日坂崎出羽守重長其甥左門逐電ノ咎ニ付テ富田信濃信高カ罪ヲ許ス　両君坂崎富田ヲ御前ニ召サレ訴論數回終ニ富田理ニ屈伏シテ奥

州岩城ニ流サル
十二日 大神君関東ニ狩シ玉フ三日駿府ニ帰御有シ為
江府ヲ出御六日中原ニ至ル時ニ馬場八左衛門ト云
者大久保相模守カ罪ヲ許フ 大神君本多佐渡守
正信ヲ召シテ是ヲ尋問ハシメ玉フ
同十三日 大神君故在テ又江府ニ還ラントス欲シ玉フ
稲毛ニ至テ 台徳院殿来謁シ玉フ十四日江府ニ還御
同十八日 禁裏ノ宮殿新ニ成此日 天子移徙有之
同廿六日大久保相模守忠隣ニ命シテ京畿及ヒ西海ニ
赴カシメ西津国ノ宗門ヲ攘斥セシム

慶長十九年甲寅

正月朔日 台徳院殿被謁 大神君被賀新正
同二日秀頼使薄田隼人正江城ニ来テ新正ヲ祝ス
同七日ヨリ 大神君葛西千葉ニ狩シ玉フ十七日江戸
ニ還御同八日最上出羽守義光卒ス六十九歳
同十七日大久保相模守ニ命シテ洛ニ往カシメ吉利支
丹ノ法ヲ制ス同廿日忠隣カ罪ヲ定ム

同廿一日　大神君江城出御同廿九日駿府ニ還御

同廿一日安藤對馬守重信并ニ本多出雲守忠朝浅野采女正長重松平越中守定綱高力左近忠房ヲシテ小田原城ヲ得セシム

同廿五日　台德院殿小田原ニ至テ　大神君ニ謁セラル同廿七日江城ニ還御

二月二日大久保忠隣ヲ江州ニ謫シ井伊右近大夫直俊カ領内ニ居ラシム

同三日浅野但馬守長晟紀州ヲ賜ル礼ヲ謝シテ駿府ニ至テ拜謁ス

同廿二日米津清右衛門ヲ阿波国ニテ殺サル是去年ヨリ此処ニ謫シ置レシ処也

三月七日高山右近ヲ加州ヨリ西津国ニ放チ往カシム堅ク邪法ヲ守ル故也内藤飛騨守忠俊隨之

同九日　台德院殿従一位右大臣ニ任セラル同廿一日勅使持綸旨至江城今年諸州ノ牧伯江城ノ石壁并ニ越後高田ノ城ヲ築ク

二月廿一日山口但馬守直友ニ命シテ吉利支丹ノ法ヲ攘シ為伏見ヲ出テ長崎ニ赴カシム

七月廿一日洛陽大佛殿供養有シトス是ヨリ事起テ
大坂両陣秀頼滅亡ノ事アリ于時翌乙卯歳五月八日也
私曰大坂両陣事難波戦記ニ詳也 家忠日記ニ両陣ノ事不詳仍除之

慶長

一去年四月十二日 前右府様御移 御出仕大名衆
家ハ代々将軍家ニ対シ奉ル忠義ヲ抽ル者ヲ
ハ御目録ヲ以ル所ノ一ノ守其旨事
一有御法度事 上之事各国ニ令通事

一各抱部ヲ法度中ニ為敵逆輩害人ニ為ル
其届ヲ不可抱事
右条々若背此旨輩ハ速ニ被行罰者
科也

慶長十七年
正月十日

伊勢神宮中守
勅使
安藤対馬守
内藤紀伊守
土井大炊頭
酒井雅楽頭

戸隠山法度

一郭光寺三院之内法不法之輩堂舎保頂之事叶
住坊但是再興之砌有切学住山者之
一代之間法事

秋田住院
立花住院
毋相寄之
越前住持
常住之輩

一住山之輩雖為本坊宿其身行儀有邪曲
仏法之義仏門狂言邪宗之事
一為平坊法院院坊職抱持僧一切可為禁止
一寺役高刈等并仏事無住坊院者之砌法
坊一切外事
一戸隠権僧正昌与法者之企謀反之法寺
之者事
右之條々以一の相寺法令
天文十七年

費用宗法度

一不五三十年ニて御用成就ニ付ニ三度
一五百三十年ニ御用ニて不敢ニ御所
一寺中ニ於ニ悪ニ五拾貫ハ可有御安
一敢ニ御用ニ度不経五年年御用書無ニ付
ニ可相成ニて

一能来寺ニ可遣有申寺ニ法度事
右條ニ者於遣有ニて軍ニ来遣ニ出家者也
寛文十七年
十月十日

拾ニ

一水役宇土矢部三ヶ所ニ城可為御御
名役宇土ニ有し候侍書ニ九ニ能ニ
引取申ニて

一隠国境目ニ無非ニ御族有ニ
重高中高ニ付ニ隠ニ居ニ言上ニ

極寧寺
龍隠寺
大同院

一肥後国球磨郡内牧城主
一多良木郡内牧城主八郎
可被
一家中侍共
事
一八代城主
彼地
野尻久右衛門
為在地

一右馬允知行
當於八代堀
附
代
年以来
一切義
為
附於
一切義
為知行三千石以下

[illegible]

一 [illegible] 今年の分[illegible]合二千石[illegible]
[illegible] 右陣[illegible]

[illegible]

[illegible]年　青山[illegible]
六月廿七日　土井大炊頭
　　同井[illegible]

[illegible]井[illegible]
[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]川[illegible]

[illegible]

一 [illegible]
中間小者[illegible]

一僧侶(重)門徒所制禁之也(不有者)者之族
恩寵者(遁)其科事
一手負之輩不流出下山莊屋者自之八但所
[illegible]手負事と分てハ其処より当国国主之名意
度之有言上者於他郡ハ[illegible]ハ其科事
一たとへ雖為禁制郡[illegible]年然上ハ臺買者也
[illegible]事も対方之[illegible]賦之一の物下ハ[illegible]於
[illegible]ハ分てハたとへ臺買之[illegible]神宮
可言上分[illegible]馬[illegible]
附おゐ他たとへ化[illegible]事
一牛[illegible]郡[illegible]制禁[illegible]
一切可臺買事
右[illegible]郡[illegible]
[illegible]

[illegible]年七月
八月六日

興福寺法度

一坊舎寺領為[illegible]臺買事

一号旧檀那院俗方寺と載利之一の寺と
附児并新発意ハ住坊ハ一の寺と
一所定め前に有来て順寺僧と所事
右堂下称する寺号也
寛文十七年
九月十七日
当寺寺僧一系印

長谷寺法度

一万学問住山と不犯不淫二十年と之の掟法帳
一坊舎并寺領私不上の寄附
一所犯所不用能化と所部那法有と心一の住寺
右堂一の寺号也
寛文十七年
十月十四日

関東天台宗諸法度

一不問如寺院寺住持
一相続寺之内の者不犯淫酒
否て随時宜て

一右末寺寄進有本寺之下知可
一不請関東本寺之成敗山門並ニ不可相從事
一於関東追放之仁不可令抱置之文於山門押之有
許容者於関東不可請山門之下知事
一不他流法流許シ経歴不可闕二季之事
一山之学頭聴衆弟子並流布之者有依怙者於
可有其所沙汰事
右堅可守此旨者也
慶長十八年
二月廿八日
喜多院

條々

一寺領之事可為信心之儀自前々之高人ニ不可
奉行共並役等文ヲ百姓共ニ乱り一銭ニても
寄之沢先規仕来ニ者八両之兵四郎年
相違有之まじき事
一於町中自然火事出来之時者六人一所不可
出合事

一金屏風[illegible]
一門[illegible]
一同[illegible]
[illegible]
右條[illegible]

寛文十八年　三月日　奉行

本山[illegible]山伏[illegible]言宗[illegible]謂役義[illegible]
但真言宗[illegible]那佛法[illegible]

可協無[illegible]

寛文十八年　五月廿一日　三宝院

[illegible]道[illegible]
任[illegible]
[illegible]
[illegible]

寛文十八年　[illegible]

三宮院

公家殿法度

一公家殿家々ニテ学問所ニ祖父ノ肖像ヲ掛テ祭礼
一不寄老若皆行儀事也之ヲ以テ屬院衆位
位衆ニ称ス可ク定年序事
一学問ニ祖父ノ肖像ヲ掛ル事ハ正嘉元年三月廿日
相国祇作ニ初メ武家ハ年数ヲ経テ後行ヒ
一殿上ニ昇ル之ヲ申ス可ク所ノ細ハ伺ヒ上ル
一公家ニ外様ハ、六位ハ侍従ニ非ズ不行儀ト

青侍以下犯罪事ト院衆同罪ノ事
右像ヲ相定ル也任平家ノ法 法美加ヲ屬ス
ニ対テ行武ヲ以テ沙汰ス也

ナヨリ七年八月
六月十二日

勅許紫衣法度

大徳寺　妙心寺　知恩院　知恩寺
浄花院　泉涌寺　光明寺（栗生）　金戒寺
右住持職ニ不沙汰　勅許以前一ノ数

告知状其旨量可令行之之旨
申出候也

六月十六日　廣橋大納言殿

掟

一石清水八幡宮領川内霊地上中分地下人ハ
如前々可制禁之事
一安居之神事為地下人令奢侈事
坊寺田畠ハ令法師之業被
一地下人等職事横領寺院社役事
制禁之事
一殺生禁断之上自然於有違犯者
中郡之有盟旋之注文是之一の言上事
右八幡八郷横領地免許之事并神事
ハ山上山下社役事以往之七十五年
九月廿五日先制之旨ハ永ハ可令遵守
寺内社家中当年中ハ可加問答
仍為件

寛政十八年
七月廿三日

新書法

起請文前書

一奉対　両御所様南殿国家を既に
一雖為親子兄弟　両御所様に為恐家族遠旨
御法度等有之ましき旨被仰上
一今度大久保加賀守様
方々より不通之儀
一公事訴訟御法之儀
為取扱兄弟親族
一於御定所被仰渡
通不届無之様
一出　御前被
可致御言葉之
御所様御言付同
一知音之仕
一皆上之者知音好
為一味仕
入精様言上仕
入魂仕

一出家申或者内法不成出家願之輩御願之儀
許可之旨申渡之由 御耳立ち者に寄聞
こと上何様にも不相済事
右之儀ニ付おゝ有之 下略

寛永十九年
二月十四日

浅田兵四郎
宮津藩藩士
井上主計殿
水野監物

一当寺領五百石 内二百五十石寺
一京法之跡盛化寺再興住同寺光明寺
宗お建立
附法式法度以下一ノ御寺ニ者ノ忠ニ役俗

安藤対馬守
土井大炊頭
阿部伊豆守
阿部豊後守

造ゝ而有之度旨被仰渡事

一山村竹木門前石垣等必先規法仕候今迄

右但書之儀十八年三月十三日先例ゝ為承屋

敷ゝ也

寄之千九百二十二年二月十八日

東京市浅草区

浅草寺

一學問勤行之可有怠慢事

一大山寺領三千石并山林境内家ゝ西樂院

有之

一知行高少任場可相其人ゝ

一縁組為支配如何之儀ハ随時之可伺ゝ

一致一到ゝ之儀ハ任可申ゝ

右可守此旨ゝ也仍如件

寄之千九百二十二年

三月十三日

西樂院

法度

一山野国飛騨郡天皇宗様名山叡殿寺為天
下安全御祈禱毎日〻護摩毎月〻所願ふ
の事已上

一山中住居〻者可守学問別当之知事
但二五門〻内可畜妻帯事
一堂塔社坊仏造立事仏木ふて代住住
山〻者世俗れ事ふ可有事
右旨〻可守法者也〻

九月五日　光明寺
学問別当
西尚　陽行院

雲山寺今之改号童子堂〻遠江国見〻四
郡市庭〻内三箇寺名二年水神住之現所
高野也寺山林竹木寺中門前法役之外
仏事勤行御造立不可有怠〻状如件

廿三日　宋山
九月十九年

大坂冬陣御供之次第

御旗奉行

嶋田次兵衛　三枝土佐守

御槍奉行

小林勝之助　米津梅千之助　永田善左衛門尉

多門縫殿助　安藤次右衛門尉　小宮山又七郎

戸田七内　伊藤右馬允　小坂新助

松田六郎左衛門

御使番

小澤瀬兵衛　青山善四郎　内藤右衛門尉

山田十太夫　朝倉源六郎　安部四郎五郎

今村彦兵衛　年礼郷右衛門　近藤勘右衛門尉

石川又四郎　渡辺半四郎　村瀬左馬之助

中川半左衛門尉　溝口外記　鵜殿石見守

黄松源兵衛

諸道具奉行

秋山平左衛門尉　荒川又六郎　中山勘解由

神谷与七郎　山角又兵衛　伊藤新十郎

御目付

山岡五郎作　加藤伊織　永井弥右衛門尉
高木九兵衛　木村源太郎

宿割

浅井六之助　五味金十郎　芝山九右衛門尉
沼田次郎太郎　市川茂左衛門　青山小右衛門尉
高田小次郎　藤川庄次郎

御幕奉行

朝比奈彦右衛尉　内藤平右衛門尉

慶長十九年十月十五日人數押之次第

松平陸奥守　米澤中納言　佐竹右京大夫

一番

酒井左衛尉　松平甲斐守　松平土佐守
設楽甚太郎　小笠原右京亮　祢津小五郎
水谷伊勢守　仙石兵部大輔　仙石大和守
相馬大膳大夫　六郷兵庫頭

二番

本多出雲守　真田伊豆守　秋田城之介

浅野采女正　松下石見守　植村主膳
一色宮内少輔　波賀摂津守

三番

榊原遠江守　松平丹波守　北条出羽
成田左衛門尉　丹羽五郎左衛門尉

四番

土井大炊助　佐久間備前守　佐久間大膳
羽柴美作守　堀淡路守　筒井主殿
溝口伊豆守　高力左近　由良信濃

五番

酒井雅楽頭　細川玄蕃頭　牧野駿河
脇坂主水正　土方掃部頭　新庄越前
杉原伯耆守　鳥居土佐守　稲垣平右衛

御旗本

本多佐渡守　本多大隅守　立花左近
立花主膳正　前田大和守　日根野織
岡部美濃守　藤田能登守　菅谷左衛
那須衆　由利衆　芦田衆

津金衆　　秋本越中守

定

一路次中宿ニ木銭ニ付宿主の義を禁ぜ候ては
ニ人ニ付銭弐三文宛ニ仕候自分ニ義を
求候ものあるべく宿賃ハ定の通ニ
一駄賃馬ニ限り次ニ而ハ通例ニ
一駄賃ニ付ニ人ニ付ニ而ハ通例ニ

右ハ御寄合ニ而
寄合ニ付
十月十九日
書付ニ通今被成仕候ニ付
定ニ付ハ
馬ハ百姓ニ
十月廿日
為ニ
ニ付ニ

中を四番の[illegible]仙台井の国[illegible]
[illegible]書[illegible]
[illegible]

十月廿三日

越前守様へ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

十月廿三日

[illegible]
[illegible]
[illegible]

内義[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十月廿三日

[illegible]

[illegible]

十月廿三日

[illegible]

[illegible]

十月廿七日

[illegible]

書状[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月廿九日

[illegible]

為豊臣初芳ちよの

禁制

一軍勢甲乙人等濫妨狼藉事

一放火之事

一田畠作毛を苅れる付仕きり申ス事

右條々堅令停止訖おゝ違犯之輩ハ速可
被處厳科者也　仍如件

十月十三日　　對馬守

昨十二日之夜おゝ坂仙波口敵方夜討雖有出
阿陽寺書而以下男女数百討死者也
内之者共討捕之以数輩成敗�following
細川兵部少輔殿

十二月十七日　　大炊助
　　雑賀孫一

於大坂仙波表焼捨之

[illegible]
佐竹右京亮殿 御國元へ

十二月廿四日

稲田帯刀殿

今度出羽山形表境目の儀に付て一揆被
仰付候事に付て刑部殿へ御國元へ

十二月廿四日

稲田帯刀殿

今度出羽横手の儀に付て佐竹右京亮殿へ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

十二月廿四日

[illegible]

今度出羽仙北表境目の儀に付て刑部殿へ
[illegible]

十二月廿四日

[illegible]

今度出羽横手の儀に付て佐竹右京亮殿へ
[illegible]

十二月廿四日

摂津国兵庫湊を渡海し西宮に着

今度為大坂表発向上洛国々之事

十二月廿四日

山名徳叙位之事

今度山陰表暫以御下向之事

慶雅君御出馬之事

十二月廿四日

元和元年乙卯

正月十七日之事

今度於摂州大坂表御陣為渡海并仙洞為和睦

豊臣軍忠之条々比類無之国々仕置

平穏也

四月十日

大坂御陣之事

今度於摂州大坂仙洞表御陣為渡海

夜討ニ刻合戦ニ及ブ所也爾刻被疵ニ依也
此輩伺感之ヲ也

同十一日　稲田浦理之ヲ

仁家方被所仙洞表杉平ノ陣ヲ攻入被
討ニ刻仁ニ名ニ依ニ移骨ニ感ニ及ヲ也

同十一日　稲田九ヲ之間ノ

今家方被所大坂表猪名川陣ヲ攻ル

ニ刻移骨ニ感ニ及ヲ也

同十一日　山田藤郎ノ

今家方被所大坂表猪名川陣ヲ攻ル

刻過移骨ニ感杉平ノ陣ヲ攻ニ及ヲ也

同十一日　梅戸内蔵助ノ

仁家方被所大坂表猪名川陣ヲ攻ル

過移骨ニ感杉平ノ陣ヲ攻ニ及ヲ也

正月十一日　毒甚ニ付

大坂城代表杉平右衛門殿入
寄ニ付合徒目付ニ申渡ス也

正月十一日　岩田七左衛門

大坂表情ニ付同役防戦ニ付合徒目
付ニ名ヲ申渡ス也

正月十一日

毒甚ニ付

大坂城代表防戦ニ付合徒到着
ヶ所相廻ル事ニ比較御目付ニ申渡ス也

正月十一日　梅原半左衛門

大坂城代表防戦ニ付合徒渡場御目
付ニ申渡ス也

正月十一日　大塚孫左衛門

今度お指物大坂ゟ福表合様形骨ゝ之感
ゝ也

三月十一日　黒深甚兵衛

ゝ家お指物大坂ゟ宜敷表防戦ゝ到着彩
貴神ゝ御手ゝ感ゝ仕候感ゝ也

三月十七日　杉原常左衛門

ゝ家お指物大坂ゟ宜敷表防戦ゝ到着彩
貴神ゝ御清ゝ感ゝ仕候感ゝ也

三月十七日　宮田大炊介

ゝ家お指物ゝ宜敷表防戦ゝ到入精ゝ旨
仕山城守ゝ家ゝ通ゝ感思ゝ也

三月十七日　浜孫左衛門

今度お指物大坂ゟ福表一戦ゝ時合庭裏
面ゝ乗形骨ゝ感思ゝ也

三月十七日

戸村十左衛門

急度申入候大坂の者人ゟ男女幼稚ゟ
ゟ民百姓迄の指出ゟ百姓若隠密人相頼
百姓ゟ旨一ゟ入申候依行義ゟ存ゟ書

四月朔日　土井大炊頭殿

書状ゟ夜前ゟ大坂義し様子入申候
而井伊掃部頭殿ゟ申聞
而是ゟ毎日御所四日ゟ諸府郡ゟ由
ゟ百姓

乃事義浮ゟ百姓ゟ
俄ゟ小ゟ
ゟ定ゟ
ゟ狂言事ゟ

四月四日

苅谷帯刀殿

申状ゟ夜前ゟ清ゟ
ゟ御所ゟ
ゟ十日ゟ

[illegible]廿二三日ハ伏見ニ[illegible]
[illegible]大坂表ニ[illegible]
[illegible]上ニ[illegible]
[illegible]

四月十七日

義堂和尚[illegible]

言礼

大坂ヨリ[illegible]書[illegible]何方ニ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

城中より[illegible]
[illegible]の功[illegible]
[illegible]

四月日

[illegible]表及一戦[illegible]
仕合[illegible]

四月晦日

[illegible]

右此制條書翰等者家忠日記追加巻廿一より同

廿四卷迄四冊ノ内往〻取書載也仍抄出之
右日記全部廿五卷之内廿一ヨリ廿四ニテ四冊有故
而不被詳記之只其大略計有之其大略八御年譜
難波戦記徳川記等之諸記往〻有之別而無録
事故ニ詳不寫之只大略ノ事ヽ并制条書翰等令
抄出之者也

家忠日記追加巻之廿五 自元和元年七月至同二年四月

平井文庫

元和元年乙卯
七月大

一日二条ノ城ニ於テ猿楽アリ
七日梵天裏仙洞ノ法式十七箇條武家ノ法式十三ヶ
條浄土真言五山濟家洞家等ノ浮屠ノ法式ヲ定
メ玉フ
梵天中并公家中諸法度

一天子諸藝能之事者一御学問也不学則不明古道而能政致太平者未有之也貞觀政要明文寛平遺誡雖不窮経史可誦習群書治要云々和歌自光孝天皇未絶雖為箒語我国習俗也不可棄置云々取載禁秘抄御習学専要候事

一三公之下親王其故者右大臣不比等着舎人親王之上殊舎人親王仲野親王贈大政大臣穂積親王准大臣是皆一品親王以後被贈大臣時者三公之下可為勿論欲親王之次前官大臣三公在官之内者為親王之君各別前官大臣関白職並再任之時者摂家之内可為位次事

一清花之大臣辞表之義座位可為諸親王之次座

一雖為摂家之其公用者不可被任三公摂関況其外乎

一器用之御仁雖被及老年三公摂関不可有辞表但雖有辞表可有再任事

一養子者連綿但可被用同姓女縁其家督

相續古今一切之事

一 武家之官位者不為公家之官職事

一 改元漢朝年号之内以吉例可被定但重日習

礼祖親者不為本朝先規之儀法事

一 天子礼服大袖小袖裳御紋十二象（諸官礼服各別）御袍麹

塵青色帛生氣御袍或御引直衣御小直衣御

一 仙洞御袍赤色擬或耳御衣大臣袍擬里文金

衣襲玉袍擬小直衣公卿着禁色親袍雜殿

上人大臣息或孫聽着禁色雜袍貫首五位

蔵人六位蔵人着禁色至極鶴着麹塵袍是申

下御服之義也晴時雖下鶴着之袍色四位以

上擬五位緋地下赤衣六位深緑七位浅緑八位

深緑初位浅縹袍之紋繿唐草輪無家々以旧例

着用之任槐以後異文也直衣公卿禁色直衣始

或拜領家々任先規着用之殿上人直衣羽林家

之外不着之雖殿上人大臣息又孫聽着禁色直

衣布衣直垂直垂着用也小袖公卿衣冠之時者

着綾練貫羽林家廿六歳迄

著之此外不著之紅梅十六歳三月迄諸家著之此外平絹也冠十六未満迄額惟子公卿迄端午殿上人迄四月両賀茂祭著用普通事

一諸家昇進之次第其家々守旧例可申上但学問有職歌道令勤学其外於積奉公労者雖為超越可被成御推任御推叙下道真備雖従八位下依有才智誉右大臣拝任寛規摸也螢雪之功不可棄捐

一関白傳奏并奉行職事等甲渡義堂上地下輩於相宜者可為流罪事

一罪科重可被寄各例律事

一摂家門跡者可為親王門跡次摂家三家時雖為親王々上前官大臣者次座相定上首也門跡々室々位者可依其仁躰考先規法中之親王希有之儀也近代及繁多無其謂摂家門跡親王門跡外門跡者可為准門跡事

一僧正大正權門跡院家可寄先例至平氏者器用卑拔之仁希有雖任之可為准僧正也但国主大

臣師範者各別事

一門跡者僧都（大正ヵ）法印但叙之事院宮兄僧都（大正権ヵ）
律師法市法眼已下先例但叙勿論但平人者本
寺推挙之上猶以相撰器用可申沙汰事

一紫衣之寺住持職先規布有之事也近年猥
勅許之事且乱髫次且汚官寺甚不可然於向
後之撰其器用戒臘相續有智者聞者入院之義
可申沙汰事

一上人号之事碩学之輩者為本寺撰正種之者
別於申上之可被成勅許但其仁躰佛法修行
及廿ヶ年者可為正年序未満者可為権猥
競望之義於有之者可被流罪事
右可被相守此旨者也
慶長二十乙卯年七月日

武家諸法度

一文武弓馬之道専可相嗜事

左文右武古之法也不可不兼備矢弓馬是武家之要樞也号兵為凶器不得已而用之

怠不忘礼何不励流鏑乎

一可制群飲佚遊事

令像所載嘉制殊重耽好色業博奕是亡国之基也

一背法度輩不可隠置於国之事

法是礼節之本也以法破理以理不破法背法之類其科不軽

一国々大名小名并諸給人各相抱士卒有為叛逆殺害人告々速可追出事

丈挾野心者為露国家之利器絶人民之鋒剣也豈呈咬啓乎

一自今以後国人之外不可交置他国者事

凡国国其風是異或以自国之密事告他国以他国之密事告自国侍媚之爾也

諸国居城雖為従輔必可言上況新儀之構營
堅令停止事

一於隣国企新儀結徒党者有之者早可致言上事
城郭百雉国之害也峻嶮陵陽大乱本也
人皆有党亦少達者是以或不順君父違干降
里不守旧例何企新儀乎

一私不可締婚姻事
夫婚合者陰陽和同之道也不可容易睦曰
匪寇婚媾者將通寇則失時桃夭曰男女以正
姻婚以時国世鑒民也以縁成党者是姦謀本也

一諸大名参勤作法之事
續日本記之制曰不預公事恣不得集已族京
裡二十騎以上不可集行云々然則不可引率多
勢百万石以下二十万石以上不可過二十騎十万石
以上可為其相應蓋公役之時者可隨其分限事

一衣裳之品不可混雜事
君臣上下可為各別白綾袖紫裏練無紋小
袖無刺繍衣猥不可有著用近代郎徒諸卒

綾羅錦繡等之錦服非古法甚制焉

一雜人恣不可乗輿事

古来依其人無御免乗家有之御免以後乗家有之然近年及家郎諸卒乗輿誠濫歟至近古向後者国大名以下一門之歴々者不及御免可乗其外昵近之衆并醫陰両道或六十以上之人或病人等御免以後可乗家郎徒卒恣令乗者其主人可為越度也但公家門跡并諸出世之衆者非制限

一諸国諸侍可被用倹約事

富者彌誇貧者恥不及倍之凋弊無是於此處令禁制也

一国主可換政務之器用事

凡治国道在得人明察功過賞罰分当国有善人則其国弥殷国無善人則其国必亡是先哲之明誡也

右可相守此旨者也

慶長二十年卯七月日

五山十刹諸山之諸法度

一東班西班轉位官資可為如寺法事

一康拂者叢林之典章出世之初步也點處近年猥依申下無拂之帖康拂既欲及退轉於向後者無拂之帖堅令停止事

一南禪寺者源紫衣天竜寺者淺紫衣其外京都鎌倉之五山黄衣十刹諸山之出世入院開堂儀式等可相守先規事

一南禪寺者亀山法皇改皇居為禪刹尊崇異他勅書云長老職之事選器量卓拔才智兼全而佛法為重擔勅行為志節之仁可補任者也僧者不必以貴人為尊乃至雖吾子孫不以勢住持云々然近年在他山恣申下南禪之帖紫衣僧其負過本寺甚以無謂向後本寺之外猥不可補任但者德碩学之仁希有雖免之彌准南禪位可為本寺之次座事

一新院建立之時申下綸旨奉書塔頭披露先規也然近年為私称寺号院号自由之至也向後令厳制事

一庄園方今度差出之上碩学料相定畢選其器甫

一代究可者之事

一鹿苑院涼之官職者先代之規範也當時不足叙用毀破之畢今以後以五山長老中帰依之僧一員可兼備出世之官資并入院出世之儀式等如先規可重賞宣

右條々寺法相續学問昇進所相定如件

元亨元乙卯年七月日

一僧臘轉位并佛事勤行等可為如先規寺法事

一参禅行就善智識三十年賈綿蜜五夫千七百

則詰問了畢之上遍歴諸老門普遂請益真讀俗諦成就出世衆望之時以諸智識之連署於被言上者入院以前堂可許可近年猥申降　論旨或僧臘不當或修行未熟之衆依令出世亟啓汚官寺衆衆及嘲者甚違于佛制向後有其企者永可追却其身事

一新院建立之時申降　論旨塔頭披露先規也然近年為私称寺号院号自由之至也向後令停止事

一常住領諸塔頭領如今度差出永可有収納事

一諸院各塔主如先規可為輪番但雖為其門流或

若輩或不器用之衆可除輪番事

右條〻為寺法相續依相定如件

元和元乙卯年七月日

大德寺諸法度

一僧職轉位并佛事勤行等可為如先規事

一參禪修行就善智識三年賣綿密工夫之頭子畢之上偏歴諸老門普遂請益真就出世衆望之時以諸智識之連書於祖堂入院可許可近年猥申降　綸帖或僧修行未熟之衆依令出世匪啻汚富寺門者甚違于佛制向後有其企者永可追却

一新院建立之時申降　綸帖塔頭披露先為私称寺号院号自由之至也向後令停止

一常住領諸塔頭領今度相改別紙録之永可

一諸院各塔主如先規可為輪番但金為其門或不器之衆可除輪番事

右條〻為寺法相續依相定如件

元和元乙卯年七月日

一從四[illegible]可為如先規寺事

淺[illegible]相教相習學觀心可為專要事

一事流者護國利民之基也仰密宗之建立以之為慰

一修學抽四海安全之誠事

弥法無悲之比丘可令衆拔事

一破戒寺可相寺本寺之法度若有法流中絶之後者

一諸宗他流可紀旨門徒自由之企於有[illegible]者寺領

不[illegible]

改[illegible]

一新[illegible]法談可為一會但數年住山之仁於有證器

帰国者任能化之許令常法談執行夏

量岡命徒諸能化企事妨学業事甚以悪僧也

一於詮今擯出於其張本事

速論者[illegible]規模之夏也無初許僧侶根本寺者用夏

一於[illegible]所学東寺高野大師之師本号摂良色或[illegible]者

一延喜[illegible]衣色[illegible]者非[illegible]

有智之高僧公達者曽不可着之事

一 在国之僧近年猥申降上人号着用香色甚以無其謂自今以後令停止之畢但有智者之誉輩者各別之事

右可相守此旨若違背之僧徒於有之者可處配流者也仍如件

元和元乙卯年七月日

高野山衆徒法度

一 検校職之事自今以後碩学之人者如古来可為三ヶ年之住持但学衆之人者可為一ヶ年之住持也其外

老若之修学衣鉢之威儀可守先規事

一 仁和高雄東寺醍醐并高野此五ヶ寺互致交衆可勤事教之修学此旨弘法之遺誡門徒之間修学最初成出可長者不可乱脚次云々然近年仁和高雄東寺醍醐為本寺之由雖被募其旨遺誡分明上者法會出仕之時門跡僧正之外任戒臘可有列座事

一 寺号院号先規無不許事也然近年濫称寺院甚無謂令停止之事

一 灌頂授職之作法或云由諸末寺或曰貧僧結縁

輙執行於客坊奥院等之非僧非学之宿聚灌頂蔓
供之執行無先規由堅令停止事

一天野明神者高野之鎮守也祭礼神事惣神主社
家供僧守先規不可企新儀事先年定寺法雖成
渡黒印今度依諸寺諸社之法度五ヶ條重而取堅

元和元乙卯年七月日

永平寺諸法度

一遂廿年之修行致江湖頭経五年僧有轉衣之望者
以嗣法師之推挙状致登山可申理自當寺就傳奏申
降 論旨以其上出世轉衣可有披露并出世之戒職
者可為 論旨附次第事

一非三十年修行了畢者不可立法幢事

一至紫衣者當寺摠持寺為當住之仁者経奏聞勅
許之時可有着用両寺之外一切不可着用於退院者
可脱紫衣事

一開山忌越前一国之諸末寺不残可出仕但遠国者
可為志趣次第事

一日本曹洞下之末流如先規可守當寺之家訓事

右近年法度相乱往〻紫衣黄衣着用之僧満巷衢
違佛制受人嘲法道陵夷無甚於此旦為佛法紹隆
旦為宗門繁栄相定畢若於違背之僧徒有之者可
處配流者也仍如件

元和元乙卯年七月日

於持寺諸法度

一 遂二十年之修行致江湖頭経五年僧有轉衣之望
者以嗣法師之推挙状致登山可申理之径當寺就
傳奏申降 論旨其上出世轉衣可有披露事付非
三十年修行了畢者不可立法幢事
一 出世之戒臘者可為 論旨日付次第事至紫衣者
永平寺為當寺當住者経奏聞勅許之時可着用
両寺之外一切不可着用於退院者可脱紫衣事
一 開山二代忌共ニ加賀能登越中三ヶ国之諸末寺不
残可出仕但遠国者可為志趣次第事

右近年法度相乱往〻紫衣黄衣着用之僧満巷
衢違于佛制受人之嘲法道陵夷無甚於此旦為
佛法紹隆旦為宗門繁栄相定畢若於違背之僧

徒者有之者可處配流者也仍如件

元和元乙卯年七月日

浄土宗諸法度

一智恩院之事立置宮門跡門領各別相定上者不可混雜寺家引導佛事等者定職任持如先規可被執行於十念為結縁門主自身可有授与事

一於京都門中撰器量之仁六人為役者可致諸沙汰曽不可有員負偏頗事

一碩学衆於圓戒傳授者調道場之儀式可令執行

一浅学之輩猥不可授与事

一對在家之人不可令相傳五重血脉之旨

一浄土修学不至十五年者不可有両脉傳授殊更於重書許可者雖為器量之仁不編廿年者堅不可相傳事

一乱明学問之年臘増上寺當住并其談儀聚之能化以両判添状可啓本寺於令満足廿年之稔者古可令頂戴上人之論旨不至廿年八可為権上人事付十五年以来之出世之座次可有正權之分別事

一非古来之学席者私不可立法幢事

一不解事理縱横之源儀著相憑文之族貪著名利
不可致法談縱亦蒙尊宿之許可令雖勸化空囿
佛經祖釋偏事狂言綺語妄座愚夫耳剩自讃毀
他最是為法衰之因諍論之縁堅可制止事
一往来之智識等其取之門中無許容聊余不可致
法談事
一若輩之砌及十ヶ年致学問其後令退轉之僧色
袈裟者依其人体六十歳以後可許之但於上人之儀
者可有斟酌事

一為平僧今縱雖充年不可致引導事
一於浄土宗諸寺家者縱為師匠之附属恣不可住職事
一就相替古跡之住持者可令血脉附法相續若於為前
住没後之入院者至流義之源可致傳授事
一紫衣之諸寺家〻住持致隠居之時可脱紫衣事
一大小之新寺為私不可致建立事
一借在家構佛檀不可求利養事
一於智識分座次者以血脉 論旨之次第上下之品可
相定事

一於法回高量之座數者以学問之戒臘可定上下
至其外之衆會者以出世之前後可着座事
一於聚化寺僧之會合者選擇以上者平僧之上下可
列座事
一平僧分中壱明法事等之役儀有其嗜輩者
開臘之内可居上座事
一不辨階級之浅深恣高挙自身對上座致緩怠
輩者永不可會合事
一諸寺家之住持家之住持任自己之分別背出
之法儀者為寺中之老僧兼日可加異見不然者可屬
同衆事
一白旗流義諸国之末寺隨其大小集調報謝錢
三ヶ年一度宛以使僧可備影前事
一出世之官物之事　論旨之分銀子二百文目参内
之分五百文目為両様同時者七百文目相定上者不
可論米穀之高下事
一末之諸寺家者從其本寺可致仕置若有理不尽
沙汰者可為本寺之私曲事

一一向無智之道心者對道俗授十念勸男女子血
脉宣以法賊也自今以後堅可停止事
一悪徒出来近年興邪教違経文釈義私勸安心
閻六字名號唯称三字迴種々謀計令誑惑衆生
是須魔民之所行速可令追拂事
一号灵佛灵地之修理不可諸国勸進事
一如旧例夏安居從四月十五日期六月廿九日冬安居從
十月十五日可至極月十五日聊不可有延淀事
一於一夏中容殿之法問十則下讀法問十一則無閼減
可令叉擇并湯日之外不可有談場懈怠各安居可
為同前事
一解問之事春從二月朔日期三月廿九日秋從八月朔
日可至九月廿七日如両安居物讀法問不可有懈怠
一頌義十人以下之僧不可為寮坊主事
一諸談所之所化自今以後縱雖令他山老若芸不可
付嘱因各事
一於一寺追放之所化者諸談所之會不可有之事
付寺僧同宿等可為同前事

一諸檀林取化之法度悉以可復從上事
右三十五ヶ條〻永代可相守此旨若於違背之仁者隨科之軽重或令流罪或可脱却三衣者也
元和元乙卯年七月日
浄土西山流諸法度
一取化衆入三年之間先習学先德之古抄於衆徒之前毎日請誦依利鈍遲速可有之事
一衆入三年之後許字聖教号之立筆之事
一頂戴聖教後就善道寺之御疏五部九巻選擇等受伴頭之指南三経一論談決擇可令修錬事
一及中年選其器量授法可讀宗脉事
一當麻蔓陀羅注記十巻證空之作也以此注銘文繪相問荅一年余再聽再問隨其根思量工夫相熟時血脉相兼在之両部令傳授而後許寺中之小役可令居伴頭事
一圓戒傳授血脉相兼可有之事
一修法修行器用阜拔之仁衆徒門中相議評色之袈裟一七日之間令或道遂門中授露則可為能化業

一辻談淺者称街談巷語先輩雖厭之近代為勸士
檀勤其企有之尤非正法令停止事
一香衣之論旨頂戴之夏殊佛法世法共成就俗諦
真諦有帰依年過耳頂令稚拳事先例也雖然近
代不限當宗出世漫有之自今以後復旧例隨其器量
年數衆望之時遂奏聞 論旨可有頂戴事
元和元乙卯年七月日
七日戸田土佐守尊次京都ニ於テ卒ス五十一歳
十七日 台徳院殿二条之城ニ渡御 大神君ニ謁シ玉フ
十九日 台徳院殿伏見ノ城ヲ出玉テ江戸ニ赴キ玉フ此日
永原ニ著御
廿日 台徳院殿依和山ニ著御江州ニ於テ采地五万石
井伊掃部頭直孝ニ加賜セラル和州郡山ノ城采地六
万石水野日向守勝成ニ賜ル松平宮内少輔忠雄ニ
備前国ヲ賜ル忠雄カ兄左衛門督忠継備前ノ国主タリシカトモ此春卒去シテ嗣子ナキニ因テナリ蜂須賀
阿波守至鎮ニ淡路国ヲ玉ル
廿一日 台徳院殿赤坂ニ著御
廿二日 台徳院殿岐阜ニ著御

廿三日　台徳院殿名護屋ニ着御義利ノ亭ニ来臨アリ
御膳物真御脇指新藤五ヲ義利ニ賜ル義利刀則重脇
指行光ヲ献ス　台徳院殿此所ニ一日御滞座
廿五日　台徳院殿岡崎ニ着御　廿六日吉田ニ着御
廿七日濱松ニ着御　廿八日掛川ニ着御
廿九日田中ニ着御　晦日清水ニ着御

八月大

一日　台徳院殿三島ニ着御　二日箱根ニ着御
三日藤沢ニ着御　四日　台徳院殿江戸ノ城ニ還ル

玉フ此日　大神君洛ヲ出玉フテ膳所ニ着御
五日　大神君水口ニ着御両ニ依テ此所ニ三日御滞座
九日亀山ニ着御　十日名古屋ニ着御數日此所ニ
御滞座アリ　廿日田中ニ着御
廿三日　大神君駿府ノ城ニ還リ入玉フ
廿四日　台徳院殿酒井備後守忠利ヲ御使トシテ
大神君ノ御還府ヲ賀セシメ玉フ　大神君茶壺十五夜
ヲ忠利ニ賜ル
九月小

廿九日　大神君関東ニ狩シ玉ハンカ為駿府ヲ御首途
此日清水ニ着御

十月大

一日　大神君善徳寺ニ着御此所ニ一日御滞座
三日　大神君三島ニ着御
四日　大神君小田原ニ着御此日　台徳院殿ノ御使酒
井雅楽頭忠世小田原ニ来テ　大神君ニ謁ス
五日　大神君中原ニ着御二日此処ニ御滞座
八日　大神君藤沢ニ着御
九日　大神君神奈川ニ着御　台徳院殿来謁シ玉フ
十日　大神君江戸ノ城ニ入玉フ
十五日　大神君江戸ノ本城ニ来臨アリ　台徳院殿些ノ
郷食シ玉フ
廿一日　大神君戸田ニ狩シ玉フ　廿五日　大神君川越ニ着御
晦日　大神君川越ヨリ忍ニ渡御アリ

十一月小

九日　大神君忍ヨリ岩付ニ渡御アリ
十日　大神君越谷ニ着御

十五日 大神君越谷ヨリ葛西ニ渡御有
十六日千葉ニ着御　十七日東金ニ着御
十九日台徳院殿太田摂津守資宗（後米女ニト号ス 亦備中守ニ改ム）ヲ
御使トシテ　大神君ノ御狩場ニ遣ハシメ玉フ資宗
東金ノ御旅館ニ至テ　大神君ニ謁ス時ニ御剱（越前）
（下坂康廷ヲ資宗ニ賜ル）
廿五日 大神君船橋ニ着御　廿六日葛西ニ着御
廿七日 大神君江戸ノ城ニ還リ入玉フ此月江戸ノ城ヘ
諸士ヲ召テ大坂ノ役戦功ヲ論議有テ各食禄ヲ賜ル（差アリ）

十二月小
四日 大神君江戸ヲ出玉テ稲毛ニ着御
六日 大神君中原ニ着御
十日井伊掃部頭直孝カ戦功ヲ褒セラレ御感書ヲ賜ル
今度ハ大坂表ニ日ヲ六ヲ以テ一戦ニ刻抽軍忠而
戦功ヲ以テ比類無之候最以神妙ニ思召ス為其賞五
万石（同場所ニ）宛行ル
十万石事ヲ願ハ五万石ヲ部合二
元和元年十二月十一。

十三日　大神君小田原ニ著御　井伊掃部ヲ以

十五日　大神君善徳寺ニ著御此日藤堂和泉守高虎

カ戦功ヲ褒セラレ御感書ヲ賜ル

今度大坂表ニ自六月合戦ニ切抽軍忠

励戦功ヲ以新領安堵ヲ以同弘之

賞ニ五万石宛ヲ以来年切ニ二十二万九千石宛

新領ニ十七万九千石宛ヲ以来月ヲ以

事ヲ定ル事ヲ了ル

元和元年十二月十五日

一惣石四千三百九十六石余　伊勢国ノ内

一三万八千石余　河内郡ノ内

一八百四十七石余　同安芸郡ノ内

一六千四十三石余　同三ツ郡ノ内

同志郡ノ内

右五万石者小物成共

右ハ今度大坂表五月六日合戦励軍忠ニ謂

賞ニ宛ル新領ニ令領知ヲ也

此冬　大神君ノ御女ヲ以テ浅野但馬守長晟ニ嫁セシメ玉フ　此御女初蒲生飛騨守秀行ニ嫁シタモフナリ　此年　大神君ノ鈞命ヲ蒙テ松平五郎左衛門尉忠次（本姓榊原然レトモ養父松平出羽守ノ姓ヲ以テ松平ト号ス）祖父榊原式部大輔カ家督ヲ継リ（榊原遠江守康勝卒去継子無ニ依ル也）舘林ノ城ヲ賜ル（是ヨリ大須賀家断絶ス）　摂州高槻ノ城ヲ内藤紀伊守信昌ニ賜ル　此年池田三五郎恒之（于時五歳後松平備後守ト号ス）江戸ニ来テ　台徳院殿ニ謁ス時ニ御膳物（中堂来）ヲ恒之ニ賜ル　安藤重長従五位下ニ叙シ伊勢守ニ任ス（後右京亮ニ改ム　安藤對馬守重信カ養子實ハ本多藤四郎カ子也）　池田次兵衛尉長幸従五位下ニ叙シ備中守ニ任ス

元和二年丙辰

正月大

一日　台徳院殿ノ御使駿府ニ来テ　大神君ニ謁シ新正ヲ賀ス　此日松平五郎左衛門尉忠次（榊原名）従五位下ニ叙シ式部大輔ニ任ス

九日松平宮内少輔忠雄侍従ニ任ス　藤堂高次従五位下ニ叙ス

廿一日 大神君田中ニ狩シ玉ヒ其夜煩ヒ玉フ是ヲ
台徳院殿ニ告ケ玉ハンカ為落合小平次御使ト
シテ江戸ニ馳ス行程僅ニ十二時ニシテ江戸ニ至リ
大神君ノ御不例ヲ 台徳院殿ニ達ス 台徳院
殿其遠来ノ速ナルヲ褒セラレ落合ニ黄金貝服
ヲ賜ル
廿四日 大神君ノ御病痾漸ク醫ヲ療シテ恥微
験アリ依ヒ田中ヨリ駿府ノ城ニ還リ入玉フ

二月小

一日 大神君ノ御不例ニ依テ 台徳院殿江戸ヲ出玉
テ駿府ニ赴キ玉フ
二日 台徳院殿駿府ニ著御 大神君ニ謁シ玉フ

三月大

十七日 大神君大政大臣ニ任シ玉フ 勅使廣橋大納言
兼勝三条大納言實條
廿七日 綸旨ヲ駿府ノ城ニ受ク
廿九日 勅使ヲ駿府ノ城ニ饗シ玉フ

四月小

三日　大神君水野隼人正忠清ヲ召テ先祖ノ忠
功ヲ美セラレ且ツ忠清カ去歳大坂ノ戦功ヲ賞
セラレ三州苅屋ノ城ヲ忠清ニ賜フル
十七日　大相国従一位前征夷大将軍源家康公駿
府ノ城ニ於テ薨逝（春秋七十五歳）駿州久能山ニ葬ル榊原
内記照久ヲシテ神職ヲ掌ラシム本多上野介正純
松平右衛門大夫正久板倉内膳正重昌秋本但馬
守恭朝四人霊櫃ニ供奉ス　台徳院殿ノ御名代ト
シテ土井大炊頭利勝尾州中納言義直卿ノ使者
成瀬隼人正正成紀州中納言頼宣卿ノ使者安藤
帯刀直次水戸中将頼房卿ノ使者中山備前守
信吉等供奉ス是皆預メ御遺言ニ依テ也此外他
人山中ニ入ル事ヲ得ス
廿九日　台徳院殿久能山ニ御参詣榊原照久カ亭ニ渡
御アリ

元和三年丁巳
二月

廿一日　大神君ノ神霊ヲ　東照大權現ト号シ奉リ
同三月九日正一位ヲ賜フ十五日日光山ニ改メ葬
ントス是　大神君ノ遺命ニ因テ也此日寅刻大
僧正天海（贈慈眼大師ト）　土井利勝松平正久板倉重昌
秋元泰朝久能山ニ登リ天海自ラ鋤鍬ヲ執ル此
レ大織冠葬ヲ改ルノ旧例也同日霊櫃善徳寺
ニ至ル本多上野介正純土井大炊頭利勝松平右
衛門大夫正久板倉内膳正重昌秋元但馬守泰朝
成瀬隼人正正成安藤帯刀直次中山備前守信吉

榊原内記照久天海等是ニ従フ十六日霊櫃三島ニ
至ル此処ニ二日留ル十八日霊櫃小田原ニ至ル此地一
日留ル廿日霊櫃中原ニ至ル廿一日霊櫃武州府
中ニ至ル此所ニ二日留ル廿五日酒井備後守忠利
天海ニ請テ論議ヲ執行ス廿六日天海自ラ衆僧
法華讀誦廿七日霊櫃忍ノ城ニ至ル蔓陀羅供廿
八日霊櫃佐野ニ至ル本多上野介正純新ニ神殿
ヲ修シテ霊櫃ヲ請奉ル廿九日霊櫃宮沼ニ至ル
此所ニ四日三日ニ至テ留ル同四日未刻霊櫃日光

山座禅院ニ入ル八日霊櫃ヲ廟塔ニ歛ム十四日神
ヲ假殿ニ移ス　宣命使阿野宰相實顕十六日神ヲ
正殿ニ移ス　宣命使中御門宰相宣衡　奉幣使
清閑寺宰相共房　台徳院殿日光山御参詣門跡
卿相雲客登山十七日本社ニ於テ法會アリ導
師天海呪願正覚院権僧正證誠梶井二品親王最
胤御布施被物禄物以下勝テ計ヘカラス
正保二乙酉年十一月三日　勅シテ宮號ヲ賜フ是
新帝即位　大權現ノ神助アルニ因テ也同十七日

勅使今出川前大納言経秀日光山ニ至リ　神前ニ於テ
宣命ヲ讀ム

我祖父家忠奉仕
東照大神宮千戈之暇作日記積年累日有數
十卷在我家久矣或遭喪亂或為童子之翫
大半失之我往年得之反古堆中拾收之緝補之
如披沙而揀金探礎砧而索玉僅餘數卷自天

正五年至文祿三年纂為若干卷以珍藏之爾
後從孫忠冬請予增補之為二十五卷名曰家
忠日記自作叙題以述其志需于弘文院林学
士而為之序予見之感忠冬之誠素暇日校
之及其毀訂其誤間又或有世之傳称而疑
者或有人之讀之而可疑者皆刪之嗚呼旁
觀者以為敝帚乎在我家則享千金而貽於
子孫之嘉珍無以尚焉若有子孫之傳讀而知
祖先之不怠事業則其致忠於君上尽孝於
先世者豈不自愧自励乎哉事詳于序及叙
題故不贅矣

寛文戊申之春

従五位下主殿頭源忠房跋

文政七年甲申四月廿日寫成拔窓

鳥語主人朶童

雪山人

咲うたる子もあり門まで

年よりかまたたい